



Title	現代モンゴル語の場所を表す接尾辞 -(n)AAの使用について : 与位格 -d/-tと対照して
Author(s)	バスバヤル, ムンフダラム
Citation	北方言語研究, 14, 79-94
Issue Date	2024-03-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/92090
Type	bulletin (article)
File Information	06_Basbayar.pdf



[Instructions for use](#)

現代モンゴル語の場所を表す接尾辞 $-(n)AA$ の使用について¹ —与位格 $-d/-t$ と対照して—

バスバヤル ムンフダラム
(東京外国語大学)

キーワード：モンゴル語、場所を表す接尾辞、コーパス調査、母語話者内省

1. はじめに

現代モンゴル語 (ハルハモンゴル語、以下では単にモンゴル語とする) には、名詞に付されて物事が行われる場所の意味を表す $-(n)AA$ ² という接尾辞が見られる。この接尾辞 $-(n)AA$ の括弧内にある子音の n は現れたり、現れなかったりする場合がある。管見の限りでは、子音の n が現れうる接尾辞 $-(n)AA$ について記述している先行研究は見られないが、Badamdorž (1997), Önörbajan (2004) では子音の n が現れない $-AA$ について述べている。いずれも与位格には $-d/-t$ という形式と並んで $-AA$ という形式もあると記述している。本稿の目的は接尾辞 $-(n)AA$ が、現代モンゴル語ではどのような語に付され、どのように使用されているかを考察することである。さらに、意味や機能の面で与位格 $-d/-t$ とどのような類似点と相違点があるかを考察する³。

2. 先行研究

以下、2.1 節で接尾辞 $-(n)AA$ と同一であると思われる $-AA$ について Badamdorž (1997), Önörbajan (2004) を取り上げる。2.2 節で意味的に近似するモンゴル語の与位格 $-d/-t$ について岡田・向井 (2006 [2016 改訂])、橋本・谷 (1993) の記述をまとめる。

2.1. $-AA$ について

2.1.1 Badamdorž (1997: 161)

Badamdorž (1997: 161) によるとモンゴル語の与位格 $-d/-t$ には $-aa$ ($-oo, -ee, -öö$), dor という形式も存在すると述べている。さらに Badamdorž (1997: 161-162) では、与位格 $-d/-t$ の意味と用法を9つに分け、その内4つ目の意味と用法である「行為や状態の存在する場所」に $-aa, -ee, -oo, -öö$ (以下、 $-AA$ とする) を分類している。Badamdorž (1997: 161) は「行為

¹ 本稿の内容は 2023 年 8 月 14 日～18 日にモンゴル国ウランバートル市で行われた国際モンゴル学会においてポスター発表として発表した内容をもとに加筆・修正をしたものである。

² 接尾辞 $-(n)AA$ の大文字 AA は母音調和による $aa, ee, oo, öö$ といった異形態があることを指している。なお、この形式のグロスには $-NAA$ とする。

³ なお、特に断りのない限り本稿におけるグロス、図表番号、太字、記号、日本語訳などは筆者によるものである。筆者はモンゴル国ザブハン県出身で 1989 年生まれのモンゴル語 (ハルハ方言) 母語話者である。本稿では例文の意味や機能などを筆者自身の内省で判断することがある。例文の表記は、モンゴル国のキリル文字による正書法で書かれたものを、ローマ字に転写したものをを用いる。ローマ字への転写は、次の方式による: $a=a, b=b, v=v$ [β], $γ=γ, ɮ=d, e=je/jö, è=jo, ж=ž$ [dʒ~tʃ], $з=z$ [dz~ts], $и=i, й=j, к=k, л=l$ [lʒ], $м=m, н=n, о=o$ [ɔ], $ө=ö$ [ø], $п=p, р=r, с=s, т=t, у=u$ [ʊ], $ү=ü$ [u], $ф=f, х=x, ц=c$ [ts^h], $ч=č$ [tʃ^h], $ш=š$ [ʃ], $ь=ʹ$, $ы=y$ [i:], $ь=ʹ$, $э=e, ю=ju/jü, я=ja$ 。カッコ [] は実際の音声を表す。

や状態の存在する場所」を表すという *xotnoo* 「街に」、*xövöö-nöö* 「岸边に」を用いた 2 つの例を示している (1, 2)。

(1) *Ix xural Ulaanbaatar xot-noo bol-no.*
大 会議 PLN 都市-NAA なる-TV.PRS
「会議はウランバートル市において行われる」 Badamdorž (1997: 161)

(2) *Manaj-x orxon-y xövöö-nöö baj-laa.*
1PL.GEN-POSS PLN-GEN 岸边-NAA いる-TV.PST
「我ら (家族) はオルホン川の岸边に住んでいた」 Badamdorž (1997: 161)

例 1, 2 をみる限りでは、*xot-noo* [街-NAA]、*xövöö-nöö* [岸边-NAA] の *-oo* と *-öö* の直前に子音 *n* が現れているが、Badamdorž (1997) はこの *n* について説明していない。

2.1.2 *Önörbajan* (2004)

Önörbajan (2004: 209) は、現代モンゴル語では与位格 *-d/-t* の他の形式 *-aa*, *-ee*, *-oo*, *-öö* は、公式の場面や文書でよく使用されていると述べ、*xotnoo* 「町に」、*tanaa* 「あなたに」を用いた 2 つの例を示している。以下、*tanaa* 「あなたに」の例を示す (3)。

(3) *Erxem xündet darga ta-naa örgö-n bar'-ja.*
親愛する 尊敬する 上司 あなた.HON-NAA 差し上げる-CVB.SIM 捧げる-OPT.
「親愛する上司 (あなた) に贈呈致します」

さらに *xotnoo* 「町に」、*tanaa* 「あなたに」は公式の場面や文章でよく使用されるが、*xödöönöö* 「田舎に」、*uulnaa* 「山に」、*usnaa* 「水に」、*sarnaa* 「月に」などは口語で使用されるという (*Önörbajan* (2004: 209))。

2.2 *-d/-t* について

以下は、岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) および橋本・谷 (1993) の与位格 *-d/-t* の意味とそれぞれの形態の用法に関する記述を、例などを一部省略した上で適宜要約して示したものである。

2.2.1 岡田・向井 (2006 [2016 改訂])

岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) は、モンゴル語の与位格 *-d/-t* の意味と用法について以下のように考察している。「与位格をとった名詞類は、述語に対する次のような [筆者注: 表 1 のこと] 関係を表示し、述語の動詞の意味によって補語成分や状況語成分になる」として、与位格の意味と用法を表 1 のようにまとめている。なお、表 1 では原文のキリル文字の例をローマ字に転写して、与位格 *-d/-t* の部分を太字で示す。

表 1: 与位格 -d/-t の意味と用法

【名詞類＋与位格語尾】			
意味役割		例 (他の補語の部分は省略)	
間接目的語	【N】 に対して 【N】 のために	ojuutand zaa- exnerᠲ av-	学生に教える 妻のために買う
空間的場所	【N】 という場所 【N】 のところに/で	Mongold baj- Doržid baj- Mongold tör-	モンゴルにある ドルジの <u>ところ</u> にある モンゴル <u>で</u> 生まれる
抽象的位置	【N】 という位置に	urgamalᠲ or-	植物に <u>含まれる</u>
空間的帰着点	【N】 という帰着点に	Japond ir-	日本に <u>来る</u>
抽象的 帰着点	【N】 という結果に	nasand xür- dargaᠲ songo-	成年に <u>達する</u> 長として <u>選出する</u>
時点	【N】 という時点に	njam garigt baj- njam garigt amar-	日曜日 <u>にある</u> 日曜日 <u>に</u> 休む
行為の目的	【N】 を目的として	usand jav- kinond jav-	水を <u>くみ</u> に行く 映画を <u>見</u> に行く

(岡田・向井 (2006 [2016 改訂]))

2.2.2 橋本・谷 (1993)

橋本・谷 (1993: 80-81) では、与位格 -d/-t は「間接目的語 (与格), 場所・位置の状況語 (位格) を表す」という。橋本・谷 (1993: 80) は与位格 -d/-t のそれぞれの形態がどのような子音や母音を語末に持つ語に付されるかについて次のように説明している。

- d: 母音⁴, ', g, v, r, s 以外の子音、大部分の v, 一部の s, r, g
- t: 大部分の g, r, 一部の s, v
- nd: 隠れた n⁵

g, r で終わる 2 音節以上の語には必ず -t が付き、v で終わる語には -t と -d の揺れが観察されるという (橋本・谷 (1993: 81-82))。

さらに、橋本・谷 (1993: 83) では与位格 -d/-t が省略される語もあるとし次の例を示している。場所を表す名詞の xot 「街」、xödöö 「田舎」、gazar 「場所」、そして時空詞の deer 「上」、gadaa 「外」、margaaš 「明日」、ödör 「日」などの時間・空間の副詞的な名詞は時間・空間の状況語 (文の副詞的修飾語) になるとき、与位格を用いないという (橋本・谷 (1993: 83))。

3. 先行研究の問題点

3.1 節で接尾辞 -(n)AA と関連すると思われる -AA について取り上げている Badamdorž (1997), Önörbajan (2004) の記述に対する問題点について、3.2 節で接尾辞 -(n)AA は与位格 -d/-t とどのように似ているか、どのような語に付されるかという筆者の仮説を述べる。

⁴ Önörbajan (2004: 209) では -d は語末が母音や子音である場合と「隠れた n」を持つ語に付される場合に現れる。さらに殆どの場合、語末が長母音である場合に「隠れた n」が与位格 -d の直前に現れるという。

⁵ 隠れた n とは、モンゴル語の一部の名詞が属格、奪格、与位格を取るときにその名詞語幹に子音 n が現れる現象のことである。

3.1 -AA の前の子音 n について

Badamdorž (1997) では、-AA は与位格 -d/-t と同様に「行為や状態の存在する場所」を表すとし *xot-noo* 「街に」、*xövöö-nöö* 「岸边に」という例を示しているが、それぞれの例にある oo と öö の直前にある子音 n とは何かについて述べていない。Önörbajan (2004) でも同様に、-AA の直前に現れる子音 n について説明していない。

3.2 -(n)AA の特徴について

まず、Badamdorž (1997: 161) で挙げられているそれぞれの例を与位格 -d/-t に置き換えると以下のようになり、同じく「行為や状態の存在する場所」を表している (4, 5)。この用法は岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) で述べられている「空間的场所」の分類に似ている。以下、Badamdorž (1997)、岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) で述べられている、「行為や状態の存在する場所」、「空間的场所」を本稿では「物事が行われる場所」と呼ぶこととする。

- (4) *Ix xural Ulaanbaatar xot-o-d bol-no.*
大 会議 PLN.NOM 都市-E-DAT なる-TV.PRS
「会議はウランバートル市において行われる」
- (5) *Manaj-x orxon-y xövöö-n-d baj-laa.*
IPL.GEN-POSS PLN-GEN 岸边-N-DAT いる-TV.PST
「我ら (家族) はオルホン川の岸边に住んでいた」

しかし、上記の例 4, 5 のように岡田・向井 (2006 [2016 改訂]) で挙げられた表 1 の「物事が行われる場所」の 3 つの例を接尾辞 -(n)AA に置き換えてみると以下のようになる。以下の例 6, 7, 8 で与位格 -d/-t が接尾辞 -(n)AA に置き換えられないのは、いずれも名詞項が人名・地名だからであると考えられる。

- (6) *Mongold baj- (7) Doržid baj- (8) Mongold tör-*
**Mongolnoo baj- *Doržinoo baj- *Mongolnoo tör-*
「モンゴルにある」 「ドルジのところにある」 「モンゴルで生まれる」

以上のように、例 4, 5 のように接尾辞 -(n)AA は与位格 -d/-t と同様に「物事が行われる場所」を表しているが、例 6, 7, 8 のように人名と地名に接尾辞 -(n)AA が付されないと考えられる。そこで、まず接尾辞 -(n)AA はどのような語に付され、どのような意味と用法を表すかを調べる必要がある。これによって与位格 -d/-t との類似点、相違点を明らかにする。なお、例 5 の接尾辞 -(n)AA を与位格 -d に置き換えた例では、与位格 -d の直前に「隠れた n」が現れている。この「隠れた n」について本稿では詳細に触れないが、接尾辞 -(n)AA の括弧内に現れる n は「隠れた n」であるか否かという事について 5.2 節で若干触れる。

4. 調査方法

本稿では、大きく分けて 3 つの調査を行う。まず、コーパスを用いて接尾辞 -(n)AA がどのような語に付されているかを調査するものである。コーパスは Mongolian National Corpus (Corpus Technologies が 2007 年から 2009 年にかけて開発したウェブコーパスで、総語数は 1,160,000 語) である。接尾辞 -(n)AA には、-naa, -nee, -noo, -nöö という 4 つの異形態が見られるため、コーパスから *naa, *nee, *noo, *nöö⁶ の形式で検索し用例を抽出する。*AA として検索すると再帰などを含む様々な用例が出現されるため、*AA より出現数が少ないと考えられる形式の *nAA で検索する。次に、その中から物事が行われる場所の意味を表すと考えられる全ての例を手作業で抽出する⁷。

次に、コーパスから得られたそれぞれの語を対象に次の調査を行う。まず Google 検索とコーパス調査を用いて、接尾辞 -(n)AA と与位格 -d/-t が付加されたそれぞれの語がどのくらいの頻度で使用されているかを比べる。Google 検索から抽出する際は、対象となる語の左右に “ ” を付けて用例を抽出する。ここで Google 検索を使用するのは Önörbajan (2004) で挙げられている xödöönöö 「田舎に」、uulnaa 「山に」、sarnaa 「月に」という 3 つの語はコーパスに出現しなかったからである。なお、上記の 3 つの語以外に筆者の内省によって選出した xadnaa 「岩に」、nuurnaa 「湖に」、suudalnaa 「席に」、angaragnaa 「火星に」、mutarnaa 「手に」、tivnee 「大陸」という 9 つの語を合わせて調査する。

次に、コーパス調査と Google 検索から得られた接尾辞 -(n)AA が付されたそれぞれの例が与位格 -d/-t に置き換えることができるか否か、置き換えられるならばどのような意味と機能を表すかを考察するものである。

5. 調査の結果

以下、5.1 節で接尾辞 -(n)AA が付いた語について、5.2 節で接尾辞 -(n)AA と与位格 -d/-t が付加された語の使用頻度について説明する。次に、5.3 節で接尾辞 -(n)AA が付された例が与位格 -d/-t に置き換えることができるか否か、置き換えられるならばどのような意味と機能を表すかについて述べる。

5.1 接尾辞 -(n)AA が付いた語について

接尾辞 -(n)AA が付された語はコーパスから 57 例が得られた。表 2 には、-nAA が付く語から列挙し、次いで -AA が付く語を並べて示す。

⁶ コーパス (Mongolian National Corpus) では、検索したい要素の左上に*マークを付けて検索すると直前に続く要素が現れる。

⁷ なお、コーパス検索では Xaliun-aa [PN-SFP] という人を呼びかける際に使用される呼称語や gene-e [QT-SFP] という引用の表現、sanaa 「意見」といった語を除外した。接尾辞 -(n)AA は、動詞にも付加されている例も見られた。これも本稿で扱うべき形式である可能性があるが、今後の課題として今回は扱わないこととした。

表 2: 接尾辞 -(n)AA が付された名詞類の一覧

<p>普通名詞: [場所を表す名詞] xot-noo 「街に」、örgöö-nöö 「宮殿に」、suvarga-naa 「仏塔に」、xüree-nee 「寺院に」、tajz-naa 「舞台に」、buuc-naa 「野営地に」、övlöö-nöö 「冬営地に」、gudamž-naa 「街道に」、čölöö-nöö 「大通りに」、öröö-nöö 「部屋に」、xövöö-nöö 「岸辺に」、xajaa-naa 「～(の) 端に」、taaz-naa 「天井に」、üüd-nee 「門に」、tuurin-aa 「遺跡に」、nar-naa 「太陽に」、salxi-naa 「風に」、xövd-nöö 「苔に」、burgas-naa 「柳に」、mörn-öö 「河に」、ordn-oo 「宮殿に」⁸</p> <p>[ものを表す名詞] ongoc-noo 「飛行機に」、tereg-nee 「車に」、xiteg-nee 「船尾に」、širee-nee 「机に」、žünz-nee 「酒盃に」、caas-naa 「紙に」、xuudas-naa 「ページに」、cus-naa 「血に」、delgec-nee 「画面に」、čuluu-naa 「石に」、xörs-nöö 「土に」、us-naa 「水に」</p> <p>[抽象的な名詞] xel-nee 「語に」、ner-nee 「名に」、alba-naa 「～(の) 勤めに」、üg-nee 「言葉に」、oln-oo 「民間に」</p>
<p>身体名詞: nüd-nee 「目に」、ceež-nee 「胸に」、čix-nee 「耳に」、zürx-nee 「心に」、uušig-naa 「肺臓に」</p>
<p>形容詞: serüün-ee 「涼しい時に」、gün-ee 「深くに」</p>
<p>代名詞: ta-naa 「あなたに」</p>
<p>時間名詞: öglöö-nöö 「朝に」、dörövn-öö 「(旧暦の) 4 日に」</p>
<p>絶対的な場所語: baruun-aa 「西に」、züün-ee 「東に」</p>
<p>相対的な場所語⁹: gadaa-naa 「外の方に」、gadna-a 「外に」、čaana-a 「向こう側に」、naana-a 「そこに」、xaana-a 「どこに」</p>
<p>その他: tölöö-nöö 「ために」、düürn-ee 「一杯に」</p>

上記の表 2 から見ると、殆どの場合には物事が行われる場所を指す名詞であるが、その他にも身体部分を表す名詞 (nüdnee 「目に」、ceežnee 「胸に」)、形容詞 (serüüne 「涼しい時に」、güne 「深くに」)、代名詞 (tanaa 「あなたに」)、時間を表す名詞 (öglöönöö 「朝に」、dörövnöö 「(旧暦の) 4 日に」)、絶対的な場所語 (baruunaa 「西に」、züüne 「東に」)、相対的な場所語 (čaanaa 「向こう側に」、naanaa 「そこに」)、未分類の語 (tölöönöö 「ために」、düürnee 「一杯に」) などが観察される。

本稿の調査の範囲では、baruun-aa 「西に」、züün-ee 「東に」のように語末が n で終わった場合は子音 n の重複を避けるために -AA で現れている。さらに gadna-a 「外に」といった語末が単母音で終わった語も母音の重複を避けるために母音調和によって短母音化して -A で現れている。しかし、suvarga-naa 「仏塔に」、alba-naa 「～(の) 勤めに」のように語末が短母音であっても -nAA で現れている場合もみられる。

以下、Google 検索とコーパスを用いて接尾辞 -(n)AA が付された語とそれぞれの語を与

⁸ この ordnoo 「宮殿」という語の原形は、ord または ordon (ordn) という 2 つの形式がありうる。もし、ord 「宮殿」であれば ord-noo, ordon 「宮殿」であれば ordn-oo として分析される。本稿では、後者の ordn-oo 「宮殿に」として扱う。

⁹ 接尾辞 -(n)AA は、相対的な場所を表す語に付された場合に限り、形のみならず、意味に注目しても場所を表しているか、同形の接辞によって再帰所属の意味を表しているか判断できない例が見られる。詳細な判断については今後の課題にする。なお、表 3 の調査結果に示さないことにする。

位格 -d/-t に置き換えて検索した結果を述べる。

5.2 接尾辞 -(n)AA と与位格 -d/-t が付いた語の使用頻度

以下の表 3 は、Google 検索とコーパスを用いて接尾辞 -(n)AA が付された語とそれぞれの語を与位格 -d/-t に置き換えて検索した結果である。表 3 は Google 検索で接尾辞 -(n)AA が現れた検索数の多い順に、与位格 -d/-t と比較して示す。加えて、それぞれの語に与位格 -d を付するといわゆる「隠れた n」が現れるため、「隠れた n」が現れる場合の語の割合を [(-n)-d] のように [] に示した。母語話者である筆者の内省により、「隠れた n」が現れないと思われる語も検索し示した。なお、表 3 の「隠れた n が現れにくい語」の内、語末子音が n で終わっている語の部分太文字の **n** で示す。

表 3: 接尾辞 -(n)AA が付いた語と与位格 -d/-t が付いた語の頻度の比較¹⁰

	語彙・意味	Google		コーパス	
		-(n)AA	-d/-t [(-n)-d]	-(n)AA	-d/-t [(-n)-d]
1	taiz 「舞台」	611,000	185[15,500]	2	0[1]
2	delgec 「画面」	373,000	26,800[248,000]	3	0[0]
3	xuudas 「ページ」	270,000	1,040[3,660,000]	3	0[8]
4	xel 「語」	238,000	126,000[528,000]	32	8[26]
5	ta 「あなた」	211,000	0[8,320,000]	15	0[165]
6	us 「水」	50,300	0[4,020,000]	3	0[237]
7	čuluu 「石」	40,600	0[257,000]	2	0[44]
8	nüd 「目」	36,300	0[1,960,000]	31	0[408]
9	uul 「山」	33,400	0[1,300,000]	0	0[131]
10	sar 「月」	31,100	0[107,000]	0	0[5]
11	örgöö 「宮殿」	24,500	0[435,000]	1	0[18]
12	öröö 「部屋」	24,500	0[435,000]	2	[121]
13	čix 「耳」	24,400	0[858,000]	9	1[118]
14	širee 「机」	22,800	0[995,000]	12	0[42]
15	xövöö 「岸辺」	20,000	0[148,000]	4	0[54]
16	salxi 「風」	10,600	0[1,180,000]	13	0[164]
17	xad 「岩」	8,330	0[315,000]	0	0[46]
18	zürx 「心」	8,270	0[1,180,000]	2	0[78]
19	ceež 「胸」	7,750	0[337,000]	6	0[76]
20	xüree 「寺院」	7,710	0[7,310,000]	11	0[70]
21	ceež 「胸」	7,340	0[347,000]	6	0[76]
22	alba 「～(の)勤め」	6,460	138,000[1,710,00]	3	1[18]
23	nar 「太陽」	5,420	0[1,120,000]	3	0[119]
24	caas 「紙」	5,170	0[180,000]	3	0[19]
25	gudamž 「街道」	4,780	19,900[1,580,000]	10	0[0]
26	xajaa 「～(の)端」	3,660	0[477,000]	7	0[73]
27	üüd 「門」	2,900	0[993,000]	7	0[115]
28	xörs 「土」	2,750	0[1,090,000]	2	0[16]
29	serüün 「涼しい」	1,610	0[90,600]	1	13[0]
30	nuur 「湖」	1,320	0[333,000]	0	0[8]
31	ongoc 「飛行機」	1,080	978[1,200,000]	3	0[31]
32	üg 「言葉」	731	1[942,000]	1	0[152]
33	ner 「名」	611	0[226,000]	1	0[2]
34	cus 「血」	293	0[1,020,000]	5	0[26]
35	čölöö 「大通り」	264	0[604,00]	1	0[29]
36	buuc 「野営地」	223	243[16,300]	1	1[9]

¹⁰ コーパスと Google 検索は 2024 年 1 月 16 日に行った結果である。

37	suvarga 「仏塔」	212	7,460[5,030]	1	0[0]
38	övölžöö 「冬营地」	101	0[19,800]	1	0[10]
39	taaz 「天井」	90	200[233,000]	1	0[2]
40	žünz 「酒盃」	73	7[7,180]	1	0[6]
41	burgas 「柳」	46	94[24,600]	1	0[14]
42	xövd 「苔」	5	760[2,340]	1	0[2]
「隠れた n」が現れにくい語					
43	xot 「街」	2,070,000	7,180,000[0]	42	149[0]
44	olon 「民間」	583,000	2,410,000[0]	30	58[0]
45	gün 「深い」	390,000	1,350,000[0]	25	51[0]
46	ordon 「宮殿」	25,900	1,780,000[0]	4	24[0]
47	züün 「東」	22,300	27,100[0]	7	0[0]
48	mörön 「河」	13,900	883,000[0]	3	30[0]
49	baruun 「西」	12,600	211,000[0]	33	1[0]
50	tölöö 「ため」	9,920	0[0]	4	0[0]
51	düüren 「一杯」	6,910	0[0]	1	0[0]
52	xödöö 「田舎」	4,360	227,000[0]	0	8[0]
53	öglöö 「朝」	2,570	105,000[0]	1	1[0]
54	tuurin 「遺跡」	603	4,600[0]	1	2[0]
55	tereg 「車」	515	31,100[515,000]	2	2[0]
56	angarag 「火星」	186	3[0]	0	0[0]
57	dörvön 「(旧暦)の4日」	105	6[0]	1	0[0]
58	suudal 「席」	63	610,000[0]	0	13[0]
59	xiteg 「船尾」	7	142[3]	1	0[0]
60	tiv 「大陸」	2	479,000[0]	0	8[0]
61	mutar 「手」	1	44,700[2]	0	2[0]

表3から分かるように、殆どの場合 Google 検索とコーパス調査での接尾辞 -(n)AA の割合は与位格 -d/-t に比べて少ないが、多少与位格 -d/-t に比べて接尾辞 -(n)AA の割合が多い語もみられる。例えば、表3の1,2にある tajz 「舞台」、delgec 「画面」、50,51にある tölöö 「ため」、düüren 「一杯」、56,57にある angarag 「火星」、dörvön 「(旧暦)の4日」に付された接尾辞 -(n)AA の割合は与位格 -d/-t に比べて多い。殆どの場合、接尾辞 -(n)AA が少ない理由は Önörbajan (2004) でも取り上げられたようにこの接尾辞が公式的な文書、詞、論文といった場面で限定的に使用されるためである。このことから接尾辞 -(n)AA は日常的生活では使用されておらず、その代わりに与位格 -d/-t の使用が日常的により多くあると見られる。

次に、表3にある与位格 -d/-t が付された1から42の間の全ての語にはいわゆる「隠れた n」が現れている。例えば、例30の nuur 「湖」は nuur-a-n-d [湖-E-N-DAT] のように与位格 -d の直前に「隠れた n」が現れている。一方、与位格 -d/-t が付された43から61の間の語は、55の tereg 「車」、59の xiteg 「船尾」、61の mutar 「手」を除いて殆どの語には「隠れた n」が現れない。さらに5.1節で述べたように語末が n で終わる44,45の olon 「民間」、gün 「深い」などの語は、oln-oo [民間-NAA], gün-ee [深い-NAA] のように子音 n の重複を避けるために -AA で現れている。

橋本・谷 (1993: 80) で示したように、与位格 -d の前に「隠れた n」が現れ、g, r で終わる2音節以上の語に必ず -t が付くということから、g, r で終わる語末には「隠れた n」が現れないと言える。表3の2音節以上の g, r で終わる語 angaragnaa 「火星に」、mutarnaa 「手に」には接尾辞 -(n)AA が付されていることから、接尾辞 -(n)AA の括弧内に現れる n は与位格 -d/-t が付される際に現れる「隠れた n」とは無関係であると結論付ける。

なお、橋本・谷 (1993) では xödöö 「田舎」という場所的な語は与位格 -d/-t を用いないと述べていたが、表 3 の例 52 では与位格 -d/-t を用いた xödööd öngörүүлсэн 「田舎で過ごした」という例が Google 検索とコーパスから見られた。詳細は今後の課題にする。

5.3 接尾辞 -(n)AA が与位格 -d/-t に置き換え可能と不可能な用法

Google 検索とコーパス調査の結果では接尾辞 -(n)AA には「物事が行われる場所」の他に、接尾辞 -(n)AA が付されたそれぞれの名詞が共起する動詞によって「抽象的な誘因」、「移動の帰着点」、「移動の行為」、「物事の付着点」、「経路点」、「方向」、「方位」、「時間」の意味を表している事が分かった。なお、方向格 -rUU、奪格 -AAs、場所的な後置詞 deer 「～の上 (を)」¹¹ という語に置き換え可能な用法も見られた。以下、それぞれの例を分析しながら接尾辞 -(n)AA が付されたそれぞれの例が与位格 -d/-t に置き換えることができるか否か、その際はどのような意味と機能を表すかを考察する。

5.3.1 与位格 -d/-t に置き換え可能な用法

本節では、接尾辞 -(n)AA が与位格 -d/-t に置き換えうるいずれの形式も「物事が行われる場所」または「誘因」の意味を表すということについて述べる。さらに、接尾辞 -(n)AA を与位格 -d/-t と方向格 -rUU, そして与位格 -d/-t と奪格 -AAs のどちらの形式に置き換えうるかということについても言及する。前者の場合は「移動の帰着点」、後者の場合は「物事の付着点」を表す。以下、それぞれの意味と用法を示す。

接尾辞 -(n)AA は、ものの部分を表す場所的な名詞に付加され、共起する duugarax 「音が鳴る」という動詞によって表される動作が行われる場所の意味を表している (9)。この場合は接尾辞 -(n)AA と与位格 -d/-t は物事が行われる場所の意味を表す。

- (9) Neg med-e-x-e-d ger-ijn xajaa-naa neg jum tasxijn duugara-v.
 ある 知る-E-VN.FUT-E-DAT ゲル-GEN 下端-NAA ある もの どすんと 音が鳴る-TV.PST
 「気がついたら、ゲルの下端の部分で何かがどすんと落ちる音がした」
 (Mongolian National Corpus)

次に、üg 「言葉」という抽象的な名詞に付加され、ujarax 「感動する」という動詞によって動作者の行為に対する心理的な誘因を表している (10)。この場合は、接尾辞 -(n)AA と与位格 -d/-t は心理的な誘因を表す。

- (10) Lolita janag nöxr-ijn-x-öö üg-nee setgel ujara-n-xan, enxrij najz min'
 PSN.NOM 愛する 夫-GEN-POSS-REFL 言葉-NAA 心 感動-CVB.SIM-DS 愛しい友 1POSS
 minij setgel xičneen dogdol-ž baj-g-aa-g či med-e-x-güj
 1.GEN 心 いくら 感動-CVB.IPFV ある-E-VN.IPFV-ACC 2SG.NOM 知る-E-VN.FUT-NEG

¹¹deer 「上」という後置詞は、場所を表す様々な語に後続し「～の上に/で」という意味を表す場合もある。

baj-na.

ある-TV.PRS

「ロリタは、愛する夫 (私の夫) の言葉に心が惹かれて、友よ、私の心がいかに感動していることをあなたは知らないのである」
(Mongolian National Corpus)

さらに場所的な名詞の *örgöö* 「宮殿」に付加され、*xürgegež irex* 「送られてくる」という動詞によって移動の帰着点を表している。なお、この例では接尾辞 *-(n)AA* を与位格 *-d/-t* に置き換えることができるが方向格 *-rUU* に置き換えることも可能である (11)。この場合は3つとも**移動の帰着点**を表す。

(11) Xaan Žamux nōxöd-d-öö bari-gd-aad Čingis-ijn örgöö-nöö

王 PSN.NOM 友人-E-REFL 捕まる-PASS-CVB.PFV チンギス-GEN 宮殿-NAA

xürge-gd-e-ž ir-e-v.

送る-PASS-E-CVB.IPFV 来る-E-TV.PST

「王のジャムフは、友人に捕まってチンギス王様の宮殿へ送られてきた」

(Mongolian National Corpus)

以下の例 12 も *burgas* 「柳」という場所的な名詞に付され、*ujax* 「結ぶ」という動詞によって物事の付着点を表している。これ例も接尾辞 *-(n)AA* を与位格 *-d/-t* の他に、奪格 *-AAs* に置き換えることが可能な例である。この場合はいわゆる奪格 *-AAs* の部分格的な用法であると思われるが、いずれの形式も同じ意味を表しているため、本稿ではこれらを**物事の付着点**であると結論付ける (12)。

(12) Itgelt oroj büxen tom gan tav'-san terg-eer xot-yn-xon n' ir-ž

PSN.NOM 夜 毎 大きい 鋼鉄 置く-VN.PST 車-INST 街-GEN-PROP 3POSS 来る-CVB.IPFV

us av-dag garm-yn ojrolcoo oč-ood mori-o burgas-naa uja-ž,

水 取る-VN.HAB 渡場-GEN 近く 行く-CVB.PFV 馬-REFL 柳-NAA 結ぶ-CVB.IPFV

tamxi tat-laa.

タバコ 吸う-TV.PST

「イテゲルトは、毎晩街の人々が大きな鋼鉄を置いた給水車で水を運ぶ渡場の近くに行って馬を柳に結んでタバコを吸った」
(Mongolian National Corpus)

以上のように、接尾辞 *-(n)AA* を与位格 *-d/-t* に置き換えることが可能な用法では共起する動詞が表す意味によって、それぞれ異なる意味と用法を表していることを明らかにした。つまり、場所的な名詞に付された *-(n)AA* と *-d/-t* は「**物事が行われる場所**」、「**移動の帰着点**」、「**物事の付着点**」、抽象的な名詞に付された *-(n)AA* と *-d/-t* は「**誘因**」を表すという点で似ている。さらに移動の帰着点を表す際は方向格 *-rUU*、物事の付着点を表す際は奪格 *-AAs* にも置き換えることが可能であるということについても分析した。

5.3.2 与位格 -d/-t に置き換え不可能な用法

本節では、-(n)AA が与位格 -d/-t に置き換えることができない例を扱う。こうした例においては、付されたそれぞれの名詞が共起する動詞によって移動の「方向」、「方位」そして共起する名詞によって「経路点」を表していることについて述べる。そして接尾辞 -(n)AA が付された名詞が表す「時間」は与位格 -d/-t に置き換えなくても良い用法について述べる。以下、それぞれの意味と用法を説明する。

接尾辞 -(n)AA は絶対的な場所語に付加され、さらに *tongojx* 「俯く」という方向や方位を含意する動詞が後続し方位を表している。これは *baruun züg-rüü* [西 方向-DIR] のような複合的な表現で表すことも可能である (13)。

- (13) *Od mičid tenger düüren gjalalz-a-ž, xjalman cagaan xavirgan sar*
 星 星団 空 いっぱい 光る -E-CVB.IPFV キラキラ 白い 新 月
baruun-aa tongoj-ž baj-x-a-d ted neleed oroj bol-sn-yg
 西-NAA 俯く-CVB.IPFV ある-VN.FUT-E-DAT 3PL.NOM かなり 夜 なる-VN.PST-ACC
med-e-v.
 知る-E-TV.PST

「空に星団が (いっぱい) 輝き、キラキラする白い新月が西に傾いている時に、彼らはかなり夜になっていたことを知った」
 (Mongolian National Corpus)

以下の例文も相対的な場所語に付加されているが、*irex* 「来る」という移動の着点を含意する動詞が後続しているため「東側に来る」という漠然とした方位を表している。そのため、*züün tal-d* [東 側-DAT] のような複合的な表現で示すこともできる (14)。

- (14) *Targat-yn gol-yn ajl-uud-yn züün-ee ir-e-x-e-d, züün-ees n' belčeer-t-ee*
 PLN-GEN 川-GEN 家-PL-GEN 東-NAA 来る-E-VN.FUT-E-DAT 東-ABL 3POSS 牧場-DAT-REFL
gar-č jav-aa aduu-n-y türüüč gar-č ir-e-v.
 出る-CVB.IPFV 行く-VN.IPFV 馬-N-GEN 軍曹 出る-CVB.IPFV 来る-E-TV.PST

「タルガト川の家たちの東側に来ると、東側から牧畜の方へ向かっている馬の軍曹が出て来た」
 (Mongolian National Corpus)

接尾辞 -(n)AA は *xödöö* 「田舎」という場所的な名詞に付され、共起する動詞の *javax* 「行く」によって移動の方向を表している (15)。

- (15) *Negen udaa xödöö-nöö jav-ž baj-tal jag ulaan zam deer n'*
 ある 回 田舎-NAA 行く-CVB.IPFV ある-CVB.TER ちょうど 赤い 道 上 3POSS
güü unagal-ž baj-x-taj taar-čee.
 メスの馬 生まれる-CVB.IPFV ある-VN.FUT-DS 会う-TV.PAST

「ある時、田舎に行っていたらちょうど目の前に (道に) 馬が生まれていたのと出会った」
 (Google 検索)

例 15 は共起する動詞 javax 「行く」という移動の方向を表しているため与位格 -d/-t を取らないのである。

さらに mörön 「河」という場所的な名詞に付加され、河の流れに沿って上流の方に進むという意味の ögsöx 「上がる」という移動動詞によって方向を表している。この場合は、-d/-t には置き換えることが不可能である (16)。

- (16) Ten-d-ees nileed xed xonog ix mörn-**öö** ögsö-n ajal-ž jav-saar...
 そこ-DAT-ABL かなり いくつ 日 大 河-NAA 上がる-CVB.SIM 旅-CVB.IPFV 行く-CVB.PROG
 「そこからかなりの数日間大河へ向かって上がって旅して行って」
 (Mongolian National Corpus)

次に、angaragnaa 「火星に」、sarnaa 「(天体) 月に」という場所的な名詞に付され後続する javagč 「歩く者」という名詞によって物事が行われる場所の経路点を表している。この際は、与位格 -d/-t に置き換え不可能である (17, 18)。

- (17) Amjeric-ijn angarag-**naa** jav-a-gč “Perseverance” aparat Ulaan nüd-e-n
 PLN-GEN 火星-NAA 行く-E-NDS Perseverance 機械 赤 目-E-N
 garg-ijn gadarguu deer amžilt-taj gazar-d-a-ž, xojor zurag ilgee-žee.
 惑星-GEN 外側 上 成功-DS 着陸-DAT-E-CVB.IPFV 2 写真 送る-TV.PAST
 「アメリカの火星の上に行く Perseverance という探査機は赤目惑星の外側に着陸する事に成功し、2 枚の写真を送った」
 (Google 検索)

- (18) Xjatad uls-yn sar-**naa** jav-a-gč sar-ny ar tal bujuu delxij rüü xar-dag-güj
 PLN 国-GEN 月-NAA 行く-E-NDS 月-GEN 裏側 又は 地球 DIR みる-VN.HAB-NEG
 tal deer amžilt-taj buu-žee.
 側 上 成功-DS 降りる-TV.PAST
 「中国の月面審査機 (月の上に行く探査機) は、月の反対側である地球の方へ向かない方面に着陸する事に成功した」
 (Google 検索)

なお、上記の例 17, 18 は日本語の訳から見ても接尾辞 -nAA を deer 「～の上 (を)」という意味を表す場所的な後置詞にも置き換えることが可能であると思われる。

次に、接尾辞 -(n)AA は、時間を表す名詞の öglöö 「朝」という語に付され時間を表している (19)。その場合は、与位格 -d/-t には置き換えられない。

- (19) Ejeldeg zöölön xavr-yn öglöö-**nöö** dorno umar züg-ees tom gegč-ijn
 優しい 柔らかい 春-GEN 朝-NAA 東方 南 方角-ABL 大きい という-GEN
 ulaan nar saja mand-a-n gar-aad...
 赤い 太陽 今しがた 昇る-E-CVB.SIM 出る-CVB.PFV

「優しくて柔らかい春の朝に、東南から大きな赤い太陽が今しがた昇ってきて…」

(Mongolian National Corpus)

さらに、上記の例は他の用法と異なって、共起する動詞や直後の名詞などの意味に関係なく副詞的に使用されている。

以上のように、接尾辞 -(n)AA には与位格 -d/-t と置き換えることが不可能な用法もあることを示した。まず、絶対的な場所語に付された接尾辞 -(n)AA は共起する動詞によって、「方位」を表す。次に xödöönöö 「田舎に」は、共起する動詞 javax 「行く」を伴って移動「方向」を表している。次に、接尾辞 -(n)AA が付された場所的な名詞に javagč 「歩く者」という名詞が後続した場合に「経路点」を表す。そして、接尾辞 -(n)AA が付された öglöö 「朝」という語は「時間」を表すが、共起する語と関係なく副詞として使用されている例であった。

なお、Google 検索とコーパス調査では、人名や地名を表す固有名詞に接尾辞 -(n)AA が付された例は見られなかった。補足として情報述べると例 20 のような所有文における人を指す名詞には与位格 -d/-t を付することができるが、接尾辞 -(n)AA はできない (20)。

(20) Aav{-d/*-naa} nom baj-g-aa

父-DAT/-NAA 本 ある-E-VN.IPFV

「父に本がある」

(筆者作例)

加えて、接尾辞 -(n)AA は Ulaanbaatar などの地名を表す固有名詞に直接付加することができないが xot 「街」などの場所的な語の後に付することができる (21)。

(21) a. Ulaanbaatar xot-noo xür-e-x.

PLN.NOM 市-NAA 着く-E-VN.FUT

b. Ulaanbaatar*naa xür-e-x.

PLN.NAA 着く-E-VN.FUT

「ウランバートル市に到着する」

(筆者作例)

しかし、例 21 に現れる xotnoo 「街に」を省略し与位格 -d/-t に置き換えることはできる (22)。

(22) Ulaanbaatar-t xür-e-x.

PLN-DAT 到着-E-VN.FUT

「ウランバートル (市) に到着する」

(筆者作例)

接尾辞 -(n)AA は、テレビ放送や報告書などでは文末に現れることがよくある (23)。

(23) Ud-a-x-güj delgeč-nee!

遅い-E-VN.FUT-NEG 画面-NAA

「まもなく放送予定 (lit.画面に)」

(筆者作例)

このように、人および人名、地名を表す固有名詞には与位格 -d/-t が付されるが、接尾辞 -(n)AA にはそのような用法はみられない。

6. まとめ

まず、コーパス調査を用いて接尾辞 -(n)AA がどのような語に付されかを考察し、以下のことを明らかにした。接尾辞 -(n)AA は普通名詞 (場所的な名詞、ものを表す名詞、抽象的な名詞)、身体名詞、形容詞、代名詞、時間を表す名詞、相対的な場所語、絶対的な場所語に付される。

次に、Google 検索とコーパス調査を用いて、接尾辞 -(n)AA と与位格 -d/-t が付加されたそれぞれの語がどのくらいの頻度で使用されているかを比べた。その結果、殆どの場合接尾辞 -(n)AA は与位格 -d/-t に比べると出現頻度が少なかった。これは、接尾辞 -(n)AA は文語的で限定的に使用されるものだからであると言える。

次に、接尾辞 -(n)AA が付された例が与位格 -d/-t に置き換えることができるか否か、置き換えられるならばどのような意味と機能を表すかを考察した。Badamdorž (1997: 161) で挙げられているように、接尾辞 -(n)AA は「物事が行なわれる場所」の意味を表す他に、共起する動詞、直後の名詞によって様々な意味と用法を表している。つまり、名詞に付された接尾辞 -(n)AA は共起する動詞によって「物事が行なわれる場所」、「抽象的な誘因」、「移動の帰着点」、「物事の付着点」、「方向」、「方位」、直後の名詞によって「経路点」を表している。「時間」の場合は、共起する語に関連なく、副詞として使用されている。次に、接尾辞 -(n)AA が表すこれらの意味と用法は与位格 -d/-t とどのように似ているかを調べた。その結果、場所的な名詞に付された -(n)AA と -d/-t は「物事が行われる場所」、「移動の帰着点」、「物事の付着点」、「誘因」を表すという点で似ている。さらに移動の帰着点を表す際は方向格 -rUU、物事の付着点を表す際は奪格 -AAs、にも置き換えることが可能である。

以下のような場合のときに、接尾辞 -(n)AA を与位格 -d/-t に置き換えられない。

- ①絶対的な場所語に付された場合。後続する動詞によって「方位」、「方向」を表す。
- ②ögsöx 「上がる」などの移動動詞を伴う場合。「方向」を表す。
- ③与位格 -d/-t を付さないとされる xödöö 「田舎」という語が、動詞 javax 「行く」と共起する場合。移動「方向」を表す。
- ④öglöö 「朝」という副詞の場合。「時間」を表す。

7. 今後の課題

まず、本稿で分析できなかった接尾辞 -(n)AA が付された語は文語的か口語的かをより多くの母語話者を対象にして調査する。さらに、接尾辞 -(n)AA が動詞にも付された例が見られたためどのような動詞に付されるか、どのような用法があるかを考察する。加えて、本稿で分析していないが、次のように与位格 -d/-t のうちには -(n)AA に置き換えできないと思われる用法のものも見られる。例えば、xot-o-d bol [街-E-DAT 焦点の小辞] 「街には」、

xot-o-d 1 [街-E-DAT 限定の小辞]「街にだけ」、xot-o-d č/bas [街-E -DAT 譲歩]「街にも」などの小辞を伴う表現である。これらの用法については今後の課題にする。

[謝辞] 本稿を進めるにあたり、まずは御丁寧にご指導を賜りました指導教員の先生方に感謝の意を表します。貴重なコメント・御指摘を下された2名の査読者の先生方にも深く御礼を申し上げます。ただし本稿における誤謬などは筆者の責に帰するものである。

略語一覧

1, 2, 3: 1st, 2nd, 3rd 1, 2, 3 人称	INST: instrumental 造格	PRS: present 現在
ABL: ablative 奪格	N: hidden n 隠れた n	PSN: personal name 人名
ACC: accusative 対格	NEG: negative 否定	PST: past 過去
CVB: converb 副動詞	NDS: noun deriving suffix 名詞 派生接辞	QT: quotation 引用
DAT: dative-locative 与位格	NOM: nominative 主格	REFL: reflexive 再帰
DIR: directive 方向格	PASS: passive 受け身 末小詞	SFP: sentence final participle 文
DS: derivational suffix 派生辞	OPT: optative 希求	SG: singular 単数
E: epenthesis 挿入音	PL: plural 複数	SIM: simultaneous 同時
FUT: future 未来	PLN: place name 地名	TER: terminative 限界
GEN: genitive 属格	POSS: possessive 人称所属	TV: terminating verbal 終止語
HAB: habitual 習慣	PROG: progressive 進行 尾	VN: verbal nominal 形動詞
HON: honorific 敬称	PROP: property 属性	
IPFV: imperfective 未完了		

参考文献

- Badamdorž, D. (1997) *Orčin cagijn mongol xelnij utga sudlalyn ündes*. Ulaanbaatar. MUIS, Mnongol Sudlalyn Deed Surguul', Sojol Erdem Deed Surguul'.
- 橋本勝・谷博之 (1993) 『モンゴル語文法・講読』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 岡田和行・向井晋一 (2006 [2016 改訂]) 「東外大言語モジュール: モンゴル語文法モジュール」標準コース lesson04, step4.与位格 [解説].
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/explanation/017.html>.
- Önörbajan, C (2004) *Orčin cagijn mongol xelnij ügzüj*. Ulaanbaatar. Mongol Sudlalyn Surguul', Mongol Ulsyn Bolovsrolyn Ix Surguul'.

利用したコーパス

Mongolian National Corpus (web-corpora.net) 最終閲覧日 2024/1/25.

Use of the Suffix -(n)AA to Indicate Location in Modern Mongolian:
Contrasted with the Dative-Locative Case *-d/-t*

Munkhdaram BASBAYAR
(Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords: Mongolian, place suffixes, corpus survey, native speaker introspection

In modern Mongolian (Khalkha Mongolian, hereafter simply Mongolian), the suffix -(n)AA is attached to nouns to indicate the place where things are done. Therefore, this study mines the nouns to which the suffix -(n)AA can be attached in modern Mongolian. The study also considers similarities and differences with the dative-locative case *-d/-t* in meaning and function. The suffix -(n)AA is attached to common nouns (locative, object, and abstract), bodily nouns, adjectives, pronouns, time nouns, relative place words, and absolute place words. Next, the suffix -(n)AA attached to a noun expresses “the place where things are done,” “abstract inducement,” “point of return of movement,” “point of attachment of things,” “direction,” “orientation” by co-occurring verbs, and “route point” by the noun immediately following it. Time is used as an adverb, without reference to any co-occurring word. Usages of -(n)AA and *-d/-t* attached to locative nouns are similar in that they express “the place where things are done,” “the point of return of movement,” “the point of attachment of things,” and “the inducement.” They can also be replaced by the directional case *-rUU* to denote the point of return of movement and the ablative case *-AAs* to denote the point of attachment of things. In the following cases, the suffix -(n)AA cannot be replaced by the dative-locative case *-d/-t*: (i) when attached to absolute place words indicating (ii) when accompanied by a verb of movement, such as *ögsöx* “to go up,” (iii) when the word *xödöö* “countryside,” which should not be accompanied by the dative-locative case *-d/-t*, co-occurs with the verb *javax* “go,” and (iv) when the adverb *öglöö* “morning. The suffix -(n)AA occurred less frequently than the dative-locative case *-d/-t*, suggesting that in modern Mongolian, the suffix -(n)AA is used in a literal and limited manner.

(バスバヤル・ムンフダラム munkhdaram@gmail.com)